

受講者ガイド

English / 日本語

i 本システムは実証実験を終え、「JDCat分析ツール」として2022年4月から本運用を開始しました。

JDCat分析ツールについては、次のURLで最新情報をご確認ください。
<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/display/jdcatanalysis>

本ページは、参考情報として実証実験中の内容を掲載しています。

このページは、授業・セミナー等でNIIのオンライン分析システムを利用する学生・受講者の方向けの情報をまとめています。

できること

- Jupyter Notebook と RStudio の分析環境をブラウザ上で利用できます。
 - 自分のパソコンに分析環境をインストールする必要がありません。
- 分析環境には、講師が作成したプログラム、データファイル、依存パッケージ等が含まれています。
 - パッケージを追加でインストールしたりする必要がありません。

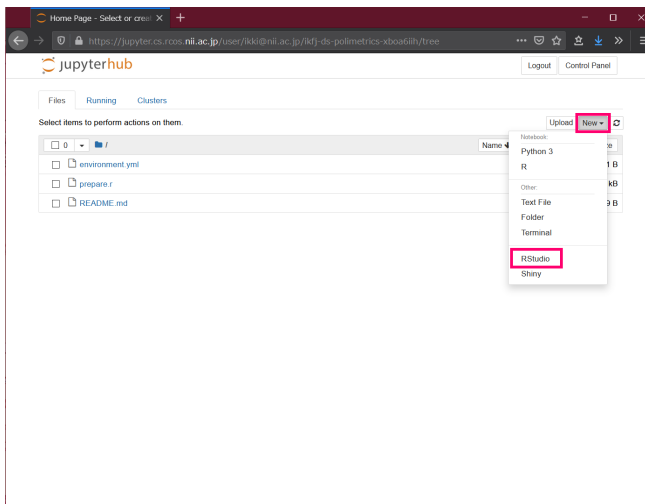
アカウント要件

本システムを利用するには、ご自身の所属機関（大学等）のアカウントか、[OpenIdP](#) のアカウントが必要です。講師の指示に従って適切なアカウントをご利用ください。

OpenIdP を初めて使う方は [OpenIdP の使い方](#) を参照してください。

分析環境の使い方

1. 講師から伝えられた URL をブラウザで開きます。
 - ここでは例として <https://binder.cs.rcos.nii.ac.jp/v2/gh/ikfj/ds-polimetrics/master> を使います。講師の指示に従って読み替えてください。
2. 所属機関の選択で、ご自身の所属機関または OpenIdP を選び、[選択] ボタンをクリックします。
3. ご自身の所属機関または OpenIdP のアカウントで認証します。
4. 自分用の分析環境が新たに作られます。
5. Files の右側にある New → RStudio をクリックします。RStudio が新しいタブで開きます。



6. 講師の指示に従って RStudio を使いましょう。

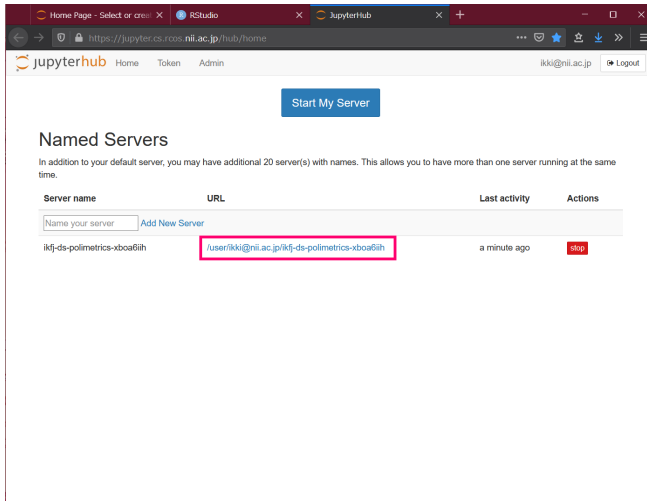
手順1.で URL を開くたびに新たな分析環境が作られる点に注意してください。つまり、この URL を2回開いたら、受講者は2個の分析環境を持つことになります。ひとりの受講者が最大4個の分析環境を持つことができます。

作業を終えたら、変更したファイルを保存してブラウザを閉じます。ブラウザを閉じても分析環境は失われません。

以前に作った自分用の分析環境で作業を再開するには

1. <https://jupyter.cs.rcos.nii.ac.jp/> をブラウザで開きます。

2. Named Servers の下にある URL をクリックします。複数の分析環境を作った場合、それぞれの URL が表示されます。



不要な分析環境を削除するには

1. <https://jupyter.cs.rcos.nii.ac.jp/> をブラウザで開きます。
2. 右側の [stop] ボタンをクリックし、しばらく待ちます。
3. 右側に現れる [delete] ボタンをクリックします。

分析環境の作り方

講師が作った分析環境とは別に、独自の分析環境を本システム上に作ることができます。詳しくは [Binder のドキュメント](#) を参照してください。URL の "<https://mybinder.org/>" を "<https://binder.cs.rcos.nii.ac.jp/>" に置き換えると、NII のオンライン分析システム上に環境が作られます。

サンプルとして以下のリポジトリがあります。

- <https://github.com/ikfj/ds-soken>
- https://github.com/ykunisato/somatori_kunisato_2019_replication_stu

問い合わせ先

国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター
オンライン分析システム担当 藤原一毅 <cs-support@nii.ac.jp>